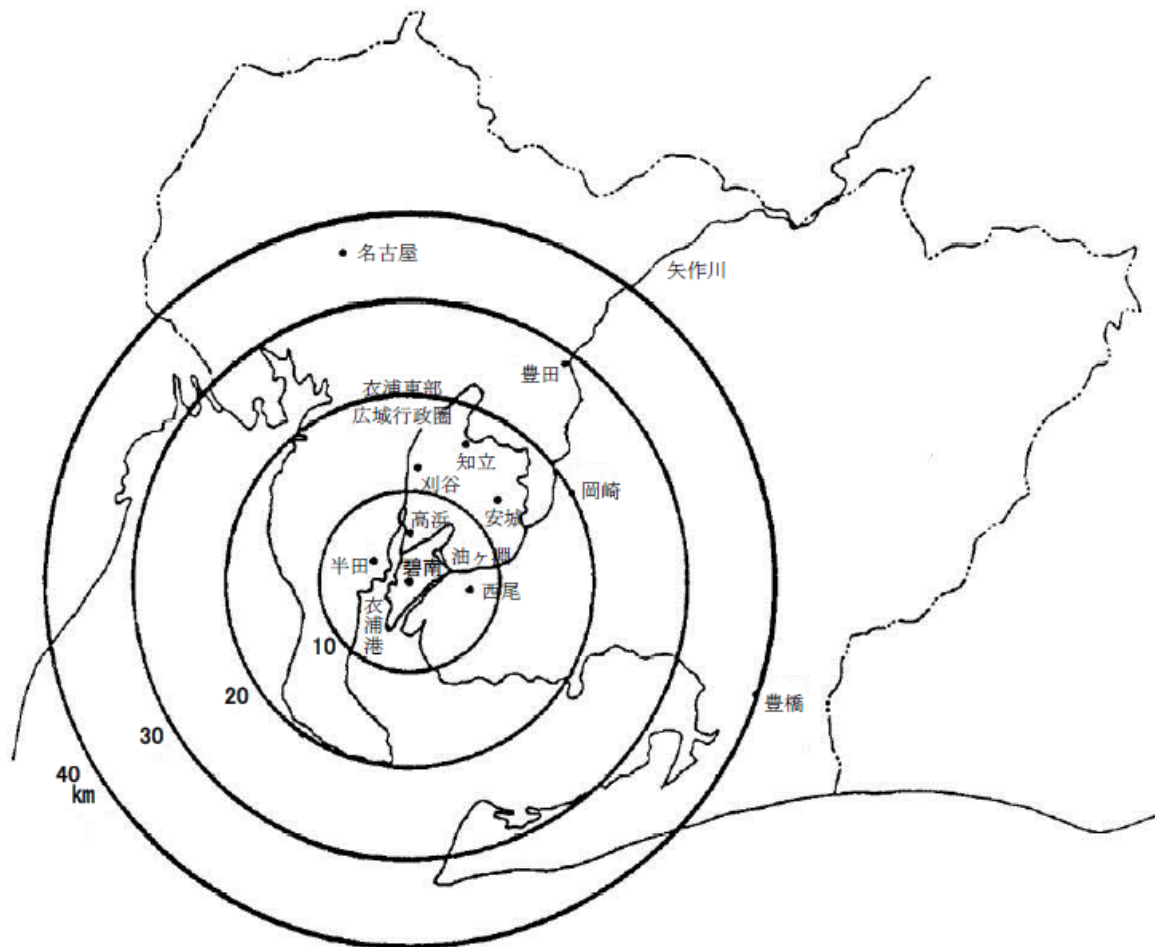


第2章 地域の概要

1. 地理的・地形的特性

本市は、愛知県ほぼ中央にあり、中部圏の中核都市である名古屋市から40km圏内に位置します。東西8km、南北に12kmと南北に長く、総面積は35.86km²です。地形的には碧海台地と矢作川沖積地からなる平坦地で、北は油ヶ淵、東は矢作川、西・南は衣浦湾と周囲を水で囲まれています。



■ 碧南市

南北 12km 東西 8km 総面積 35.86km²

北緯 34° 53′ 東経 136° 59′

(平成18年1月1日現在)

図 2-1 碧南市の面積と位置

2. 河川等の現況

本市は、北は油ヶ淵、東は1級河川矢作川、西・南は衣浦港と周辺を水で囲まれています。本市の1級河川は、矢作川と鹿乗川の2つがあり、どちらも矢作川水系に属しています。その他に2級河川が6つ、準用河川が8つあります。

また、愛知県唯一の天然湖沼である油ヶ淵があり、本市と安城市の境、高浜川河口から2km上流の低平地に位置しています。湖面積0.64km²、周囲6.3km、平均水深3mであり、海水と淡水の混じり合った天然汽水湖です。

油ヶ淵への流入河川には長田川、半場川があり、高浜川、新川を通じて衣浦湾奥部へ流出しています。

この他にも、蜷川、堀川が本市を流下し、衣浦湾に注いでいます。

表 2-1 市内の主な河川

河川名称	河川の等級
矢作川	1級河川
鹿乗川	〃
長田川	2級河川
稗田川	〃
高浜川	〃
新川	〃
半場川	〃
蜷川	〃
堀川	準用河川

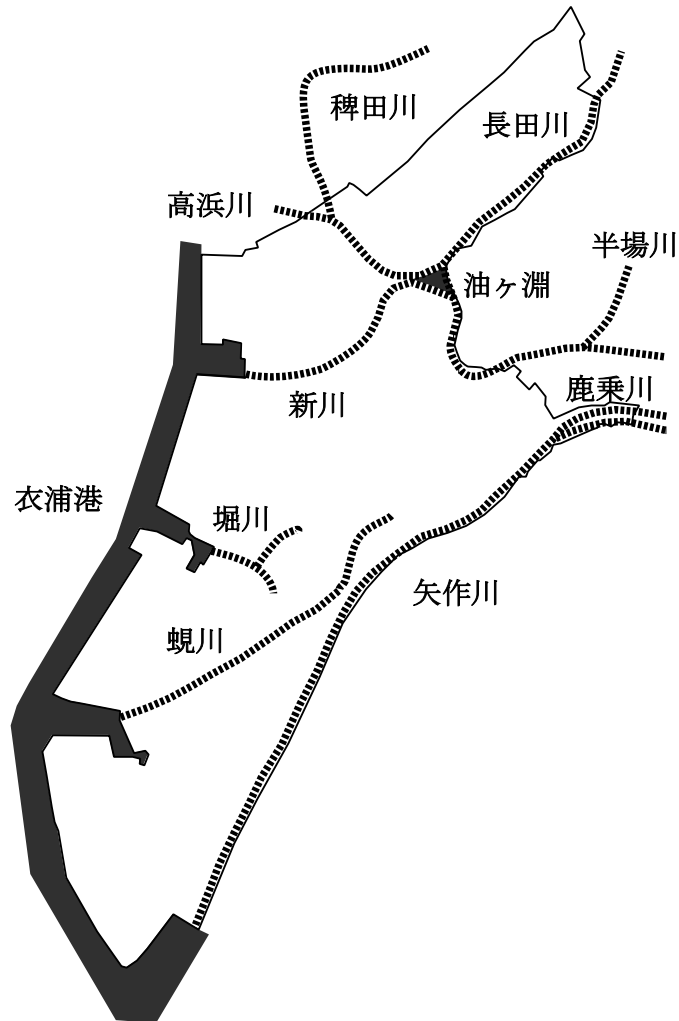


図 2-2 主な河川の位置

3. 気候・気象等

本市の気候は、梅雨や秋雨、台風の影響により夏から秋にかけて雨が多く、冬は雨が少ないのが特徴です。

平成27年の年平均気温は約17.0℃、年間降雨量は1,546 mmとなっています。また平成23年～27年の月別降雨量平均値をみると、6月、9月の降雨量が多くなっています。

気温については、平成23年～27年の年間平均値が16.5℃で、月平均気温の最高は8月の28.4℃、最低は1月の4.8℃であり、比較的温暖で過ごしやすい気候といえます。

表 2-2 気象の概要

区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平均
平均気温 (°C)	16.3	16.0	16.5	16.9	17.0	16.5
降雨量 (mm)	1,354.0	1,187.5	1,178.5	1,243.0	1,545.5	1,301.7

資料：碧南の統計

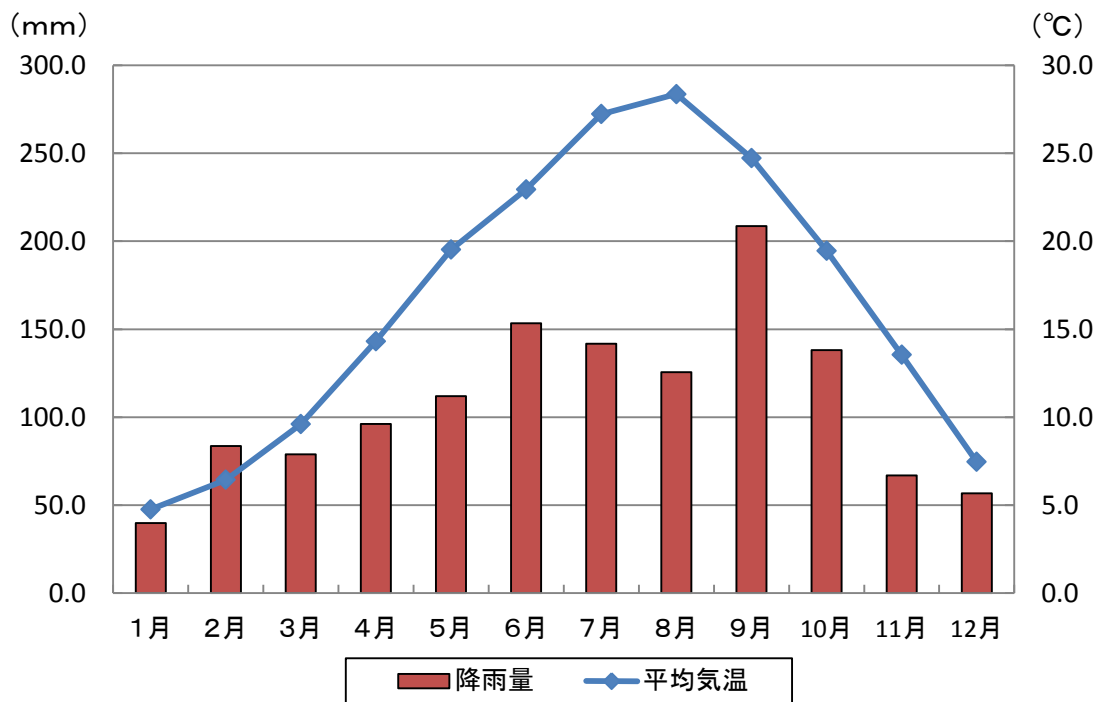


図 2-3 月別降雨量と平均気温（平成23年～27年平均値）

資料：碧南の統計

4. 人口

本市の平成28年4月1日人口は71,789人で、近年は若干減少傾向にあります。世帯数は横ばいで推移し、平均世帯人員は減少傾向を示しており、核家族化が進んでいることがみてとれます。

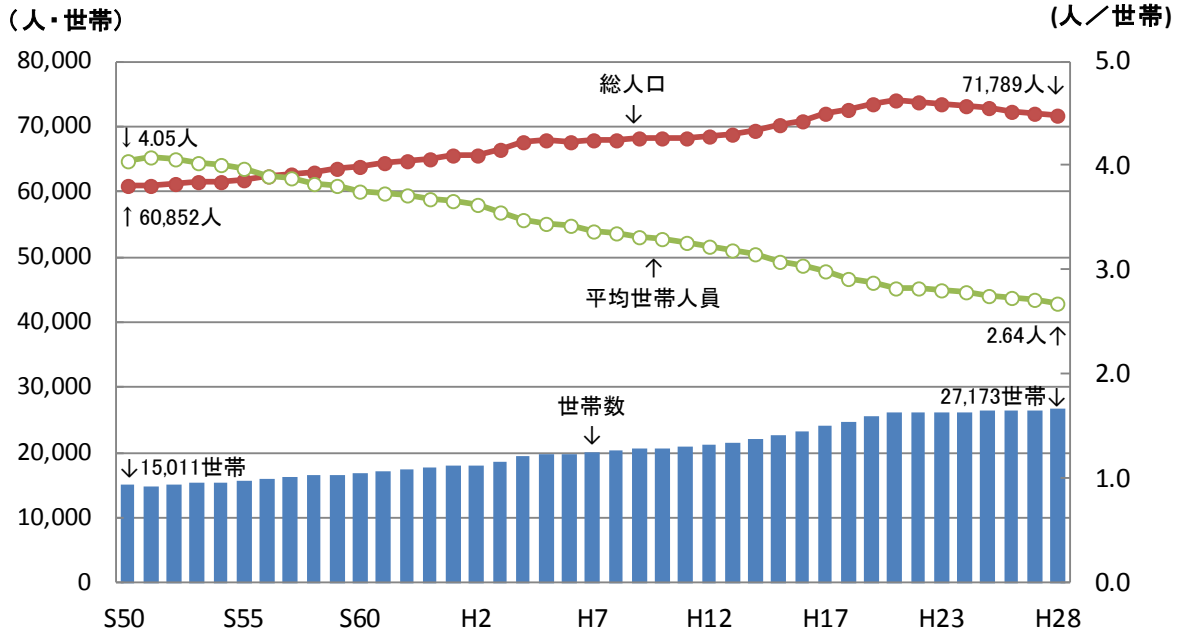


図 2-4 人口及び世帯数の推移 (各年4月1日現在)

資料：碧南の統計

国勢調査の結果を基に示される人口集中地区 (D I D) をみると、平成27年では、人口は63,766人、面積は17.78km² となっています。平成22年と比較すると、人口・面積ともに増加しています。また人口について、人口集中地区が総数に占める割合をみると、平成22年は86.5%であったのに対して、平成27年では89.4%と増加しており、人口集中地区に、より人が集まっていることがうかがえます。

表 2-3 人口集中地区 (D I D) 別人口

区分	人口 (人)				面積 (km ²)	
	平成22年	平成27年	平成22年~27年		平成22年	平成27年
			増加数	増加率		
総数	62,286	63,766	1,480	2.4	17.15	17.78

資料：『国勢調査報告』

区分	人口密度 (人/km ²)		人口集中地区が総数に占める割合 (%)			
	平成22年	平成27年	人口 (人)		面積 (km ²)	
			平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
総数	3,631.8	3,586.4	86.5	89.4	47.8	49.6

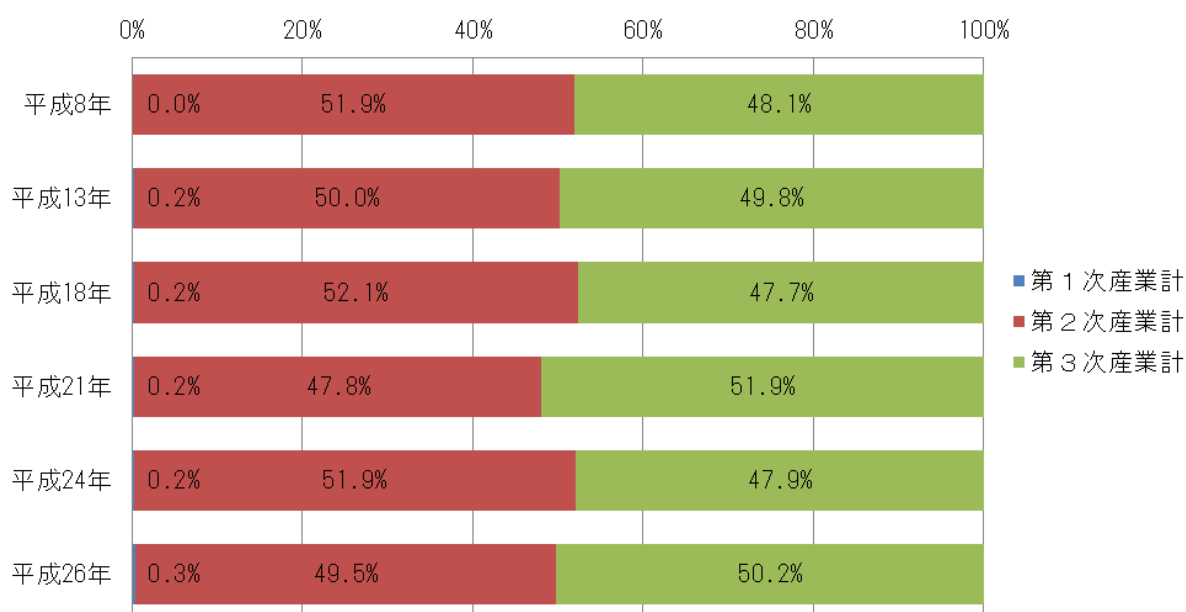
※各年 10月1日現在 資料：碧南の統計

5. 産業

産業分類別従業者の推移をみると、図2-5に示すとおり、平成26年では農林水産業を中心とした第1次産業が0.3%、製造業を中心とした第2次産業が49.5%、サービス業を中心とした第3次産業が50.2%となっています。

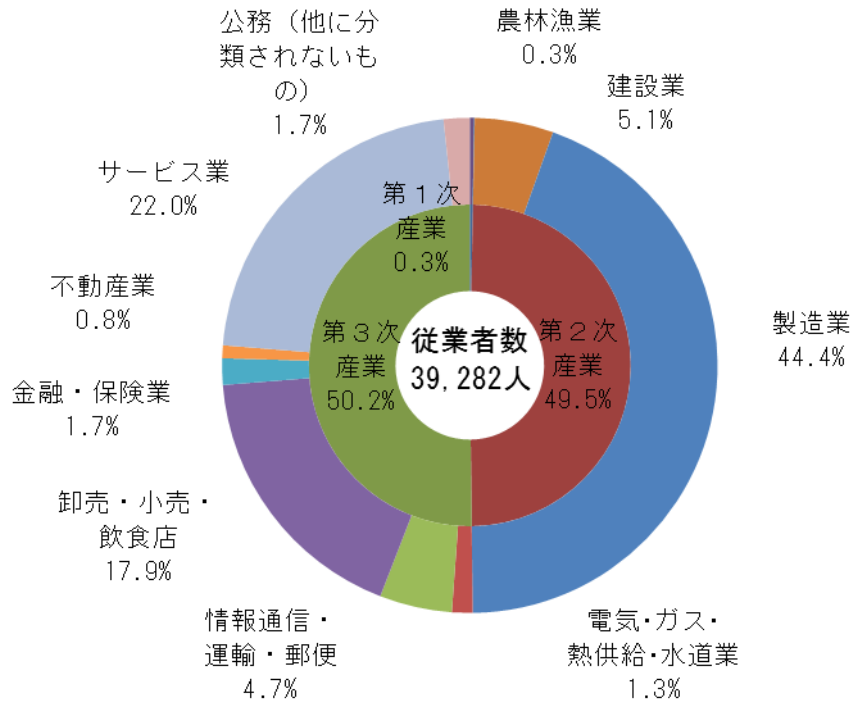
産業の従業者数構成をみると、図2-6に示すとおり、第2次産業と第3次産業を合わせて全体の99.7%を占めています。その内訳は、第2次産業で製造業が44.4%と高い割合を占め、次いで建設業が5.1%を占めています。第3次産業ではサービス業が22.0%、次いで卸売・小売・飲食店が17.9%を占めています。

産業別事業所数の推移をみると、図2-7に示すとおり、卸売・小売・飲食店、製造業は減少していますが、サービス業は増加しています。



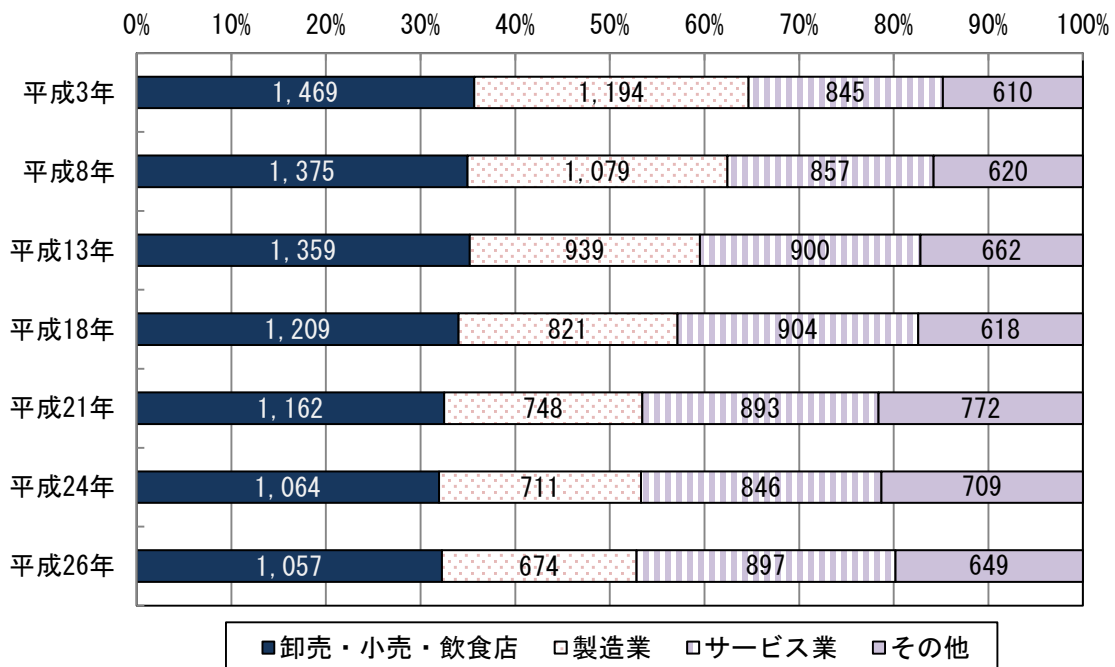
資料：碧南の統計

図2-5 産業分類別従業者数の推移



資料：碧南の統計

図2-6 産業の従業員数構成 (平成26年7月1日現在)



(※平成8年からは10月1日現在、平成3年は7月1日現在)

資料：碧南の統計

図2-7 産業構成・事業所数の推移

(1) 農業

農家戸数の推移をみると、総農家数は減少傾向にあり、平成27年では888戸となっています。内訳をみると、販売農家は経年的に減少しており、自給的農家数は平成7年以降増加傾向にあったものの、平成27年は減少しています。

表2-4 農家戸数の推移

(単位：戸)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	
総農家数		1,280	1,239	1,141	1,034	888	
販売農家	計	971	893	753	632	516	
	専業農家	193	208	230	208	234	
	兼業農家	計	778	685	523	424	282
		第1種兼業農家	289	213	178	129	86
		第2種兼業農家	489	472	345	295	196
自給的農家数		309	346	388	402	372	

※各年2月1日現在 資料：碧南の統計

(2) 漁業

漁業階層経営体数を見ると、平成25年では総数で60経営体となっています。

平成16年から平成25年にかけて、経営体数に大きな変化はなく、ほぼ横ばいで推移しています。

表2-5 漁業階層経営体数の推移

(単位：経営体)

区 分	平成16年	平成17年	平成19年	平成20年	平成25年
総 数	54	53	53	47	60

資料：碧南の統計

(3) 工業

事業所数及び出荷額等をみると、平成26年では、事業所数が360件、製造品出荷額等が8,275億円となっており、平成22年からの推移をみると、事業所数は減少傾向にあるものの、製造品出荷等はほぼ横ばいに推移しています。

業種別にみると、製造品出荷額等では輸送用機械器具が4,827億円と最も多くなっており、全体の58.3%を占めています。

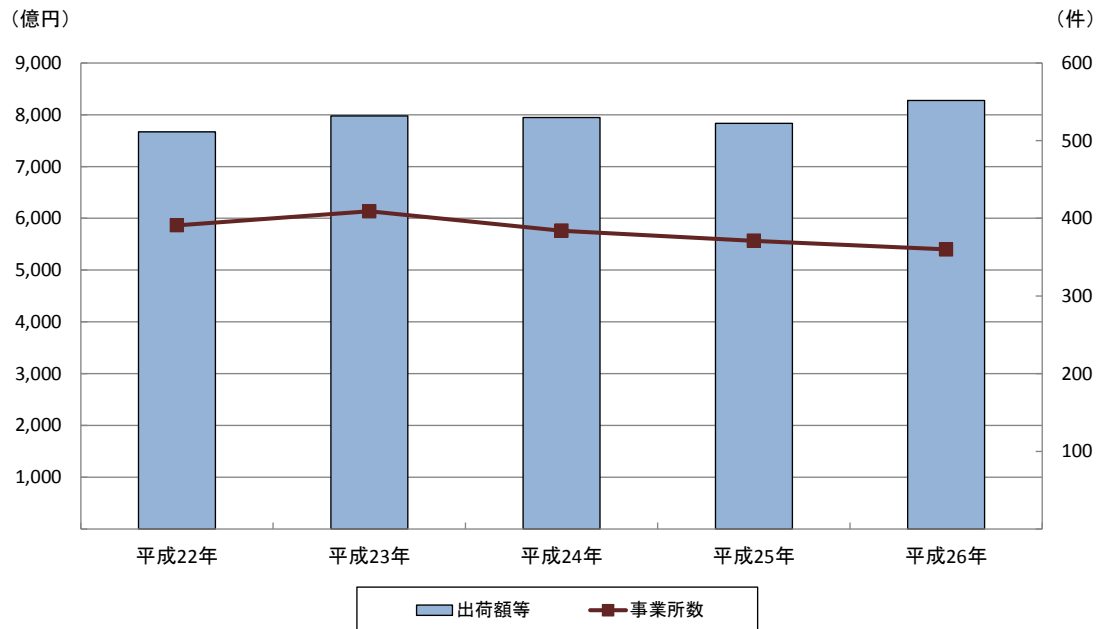


図 2-8 事業所数及び出荷額等の推移

表 2-6 業種別・事業所数・出荷額等の推移（平成26年）

区分	事業所数	製造品出荷額等 (億円)	区分	事業所数	製造品出荷額等 (億円)
食料品	48	1,003.9	鉄鋼	27	959.6
飲料・たばこ・飼料	6	171.9	非鉄金属	16	263.8
繊維工業製品	5	4.5	金属製品	40	239.7
木材・木製品	-	-	はん用機械器具	11	24.0
家具・装備品	5	3.4	生産用機械器具	42	131.7
パルプ・紙・紙加工品	5	106.7	業務用機械器具	4	12.8
印刷・同関連業	4	1.9	電子部品・デバイス・電子回路	-	-
化学工業	3	67.2	電気機械器具	8	76.0
プラスチック製品	17	121.4	情報通信機械器具	-	-
ゴム製品	7	36.8	輸送用機械器具	55	4,827.4
窯業・土石製品	41	181.7	その他	16	19.0

資料：碧南の統計

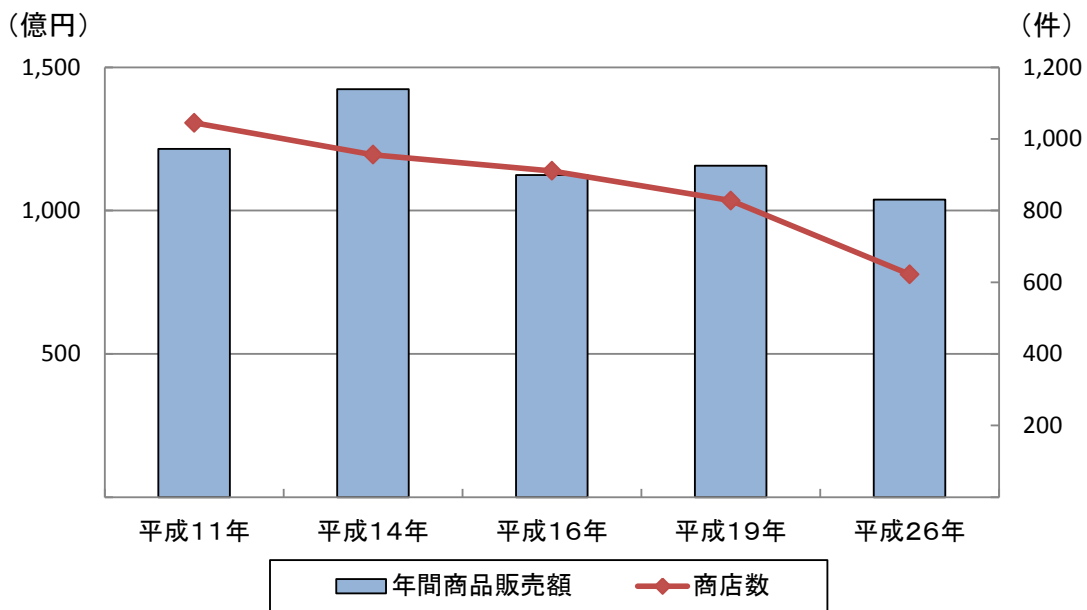
(4) 商業

商業の状況としては、平成26年では商店数622件、従業員数3,762人、年間販売額1,038億円となっています。平成14年からの推移をみると、年間販売額、商店数とも平成14年から平成26年まで減少傾向にあります。

表2-7 商業の状況（平成26年）

区 分	商店数（件）	従業者数（人）	年間販売額（億円）
卸売業	137	893	450.5
小売業	485	2,869	587.6
計	622	3,762	1,038.1

資料：碧南の統計



資料：碧南の統計

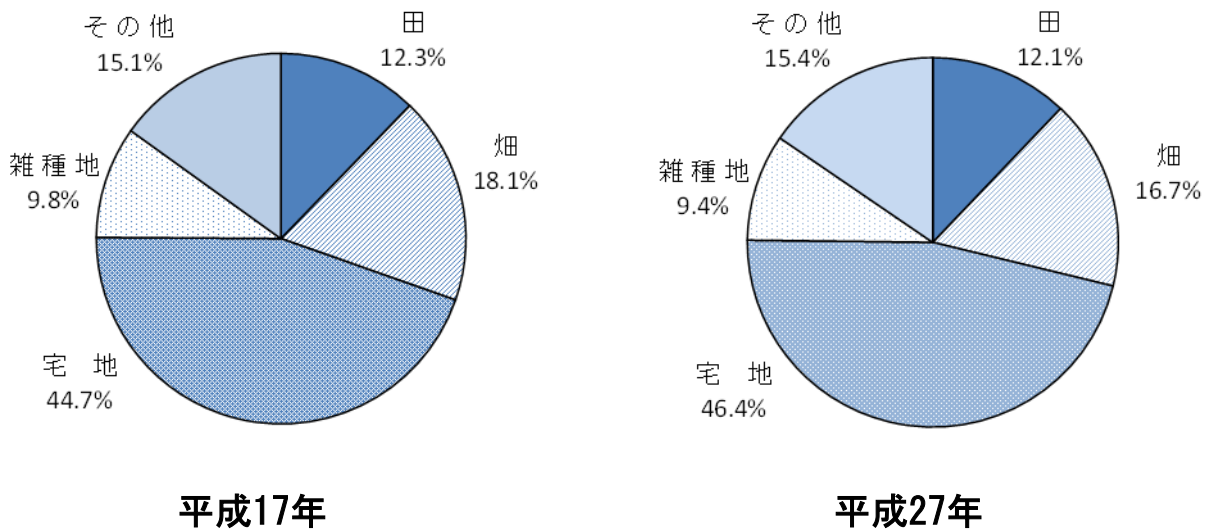
図2-9 商店数及び年間商品販売額の推移

6. 土地利用

(1) 土地利用

本市は、周囲を水に囲まれ、古くから矢作川沿いの新田開発をはじめとして、碧南干拓、衣浦臨海部の造成など、埋立による開発が進められ、市域面積の約4割が埋立によるものとなっています。

本市の土地利用についてみると、平成27年では、宅地の占める割合が、46.4%と最も多く、次いで畑16.7%、その他15.4%となっています。平成17年と比較しても、土地利用構成にはあまり変化が見られません。



資料：碧南の統計

図 2-10 土地利用の形態別構成の変化

(2) 用途地域

本市では、昭和45年に、無秩序な開発を防ぎ計画的に市街化を図る市街化区域と、農業の振興や自然景観を保全する区域として市街化調整区域を設定し、その後、おおむね5年ごとに見直しを実施しています。

平成25年現在、市街化区域を2,117ha（59.0%）、市街化調整区域を1,469ha（41.0%）としています。

表 2-8 用途地域別面積

(平成25年3月15日決定)

区 分	面積 (ha)	構成比
市街化区域	2,117	59.0%
住宅系	911	25.4%
第1種低層住居専用地域	75	2.1%
第2種低層住居専用地域	0	0.0%
第1種中高層住居専用地域	256	7.1%
第2種中高層住居専用地域	29	0.8%
第1種住居地域	499	13.9%
第2種住居地域	19	0.5%
準住居地域	33	0.9%
商業系	129	3.6%
近隣商業地域	111	3.1%
商業地域	18	0.5%
工業系	1,077	30.0%
準工業地域	390	10.9%
工業地域	25	0.7%
工業専用地域	662	18.5%
市街化調整区域	1,469	41.0%
都市計画区域	3,586	100.0%

資料：碧南の統計

7. 水利用

本市の水道は、昭和33年に給水を開始して以来、年々給水人口の増加と排水量の増加で順調に推移してきましたが、水源である矢作川の河床低下等による取水量の減少等により昭和49年から一部県水の受水を開始し、昭和52年より全量県水に頼っているのが現状です。

上水道の状況をみると、給水人口及び1戸あたり1日平均配水量は減少傾向にあるものの、給水戸数は増加傾向にあります。

表2-9 上水道の状況

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
給水人口(人)	72,610	72,024	71,746	71,575	71,682
給水戸数(戸)	24,337	24,676	24,916	25,302	25,588
普及率	99.8%	99.8%	99.8%	99.8%	99.9%
1日平均配水量(m ³)	23,631	23,641	23,680	23,400	23,329
1戸あたり1日 平均配水量(m ³)	0.971	0.958	0.950	0.925	0.912

※普及率＝給水人口÷年度末現在登録人口

資料：碧南の統計